

海と山に抱かれた本庄

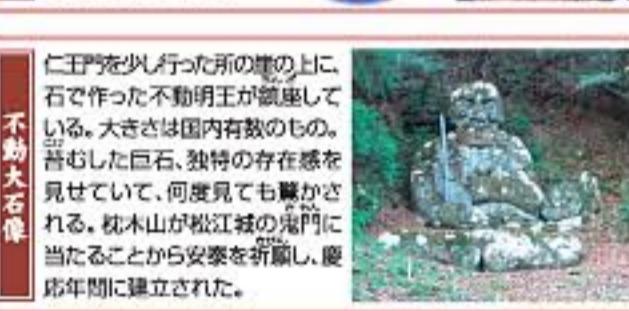
まちあるきマップ



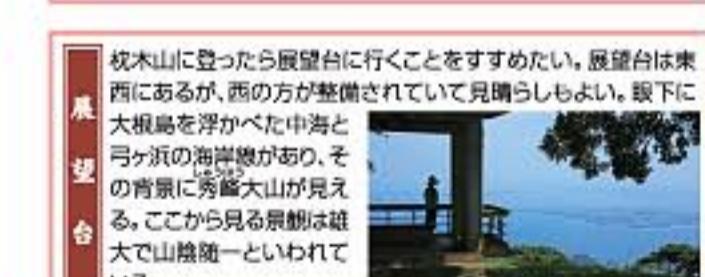
枕木山山頂より大山・中海を望む

歴史と伝統の豊山 枕木山華厳寺コース

地蔵堂 仁王門 不動大石像 杉井の墨水 山門 本堂、薬師堂 展望台



通天橋を渡ると岩壁より水が湧き出ている。ここで参拝者はのどを潤すが、これを「杉井の墨水」という。龜山上屋が古病気のとき、この水を舐めたところ、たちどころに治ったと言ういわれが残っている。



通天橋を渡ると岩壁より水が湧き出ている。ここで参拝者はのどを潤すが、これを「杉井の墨水」という。龜山上屋が古病気のとき、この水を舐めたところ、たちどころに治ったと言ういわれが残っている。

地蔵をめぐるコース

<本庄の地蔵伝説>



A編みがさ地蔵(山崎地区)

編みがさ地蔵(山崎地区)

昔、山崎のため池の築造に関わる人々が、湧き水や土石積きの工事に日暮り果て、近くの道を朝一通りに通る者を人柱にしてしまうと相談した。翌朝、通り過ぎようとした編みがさ売りの男を捕まえ、彼を生き埋めにした。工事は無事完成したが、後世の者はその人を憐んでお堂を建て、木彫の地蔵さんを祀ったという。



B首なし地蔵(木井地区)

首なし地蔵(木井地区)

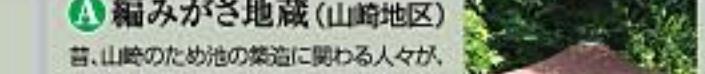
昔、九枚川口門という庄屋があつた。凶作の年に役人の墓石を受け、減米を課され、少しそれを咎められ、その場で打ち首になつた。村人はそれを大いに悲しみ、遺骨を見渡せる場所に堂を立て、地蔵菩薩を祀った。後に堂を崩して石の祠としたといふ。



Cぐち聞き地蔵(新庄地区)

ぐち聞き地蔵(新庄地区)

人々のもつ悩みや不安、それからくぐらを聞いて上げようと、幸福寺が境内に平成19年に創った。まだ新しい地蔵だが、手を耳に当て、やさしそうな表情で話を聞く姿に、懐かや地元住民らは親しみを持って手を合わせていて。

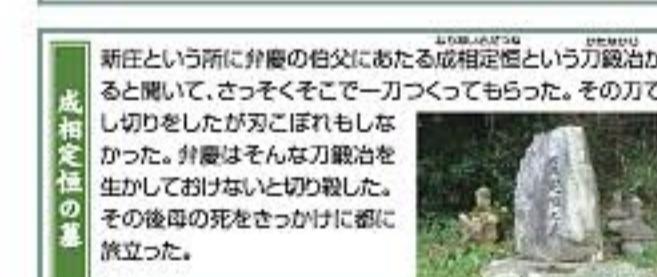
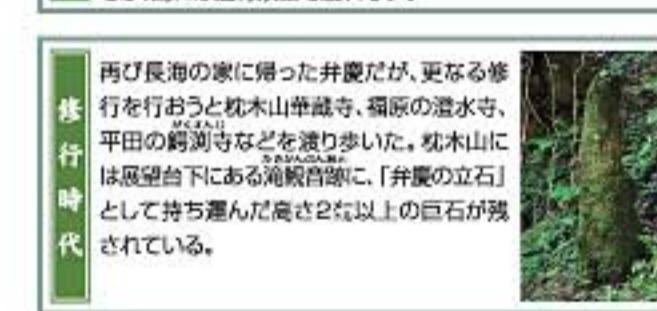


弁慶伝説をめぐるコース

長見神社 → 弁慶の森 → 弁慶の大石 → 弁慶島 → 成相定恵の墓



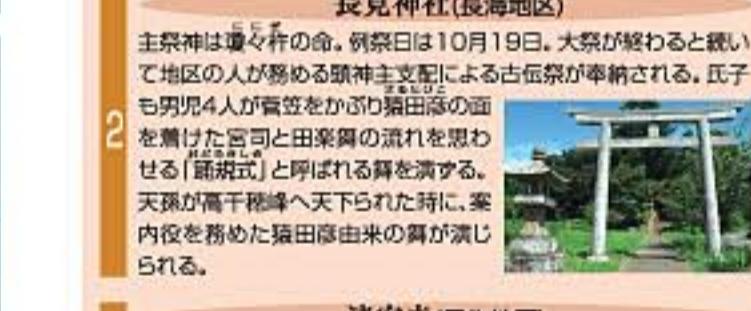
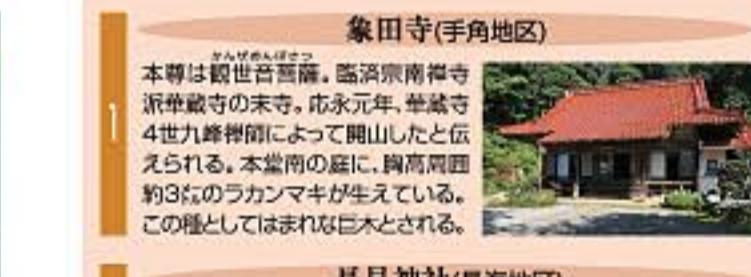
生れたとき弁慶は母の腹内に13月力弱いて、脛はすでに届まで伸び、歯も生え揃っていた。小さい頃から体格はとても大きくて力持ちで、5歳のときに高さ2メートルの人石を、軽々と持ち運んだ。その人石は弁慶の森の入り口付近の畠のなかに、今でも置いてある。



新庄という所に弁慶の伯父である成相定恵という刀鍛冶がいると聞いて、さっそくそこで一刀つくつもらつた。その刀で試し切りしたが刃こぼれもしなかつた。弁慶はそんな刀鍛冶を生かしておけないと切り殺した。その後母の死をさっかくに都に旅立つた。

社寺をめぐるコース

1 泰田寺 2 長見神社 3 清安寺 4 大通寺 5 月上神社 6 幸福寺 7 久良瀬神社 8 宝林寺 9 多氣神社



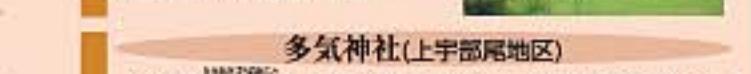
主祭神は彦々杵命。例祭日は10月19日。大祭が終わると隣いで地区的人が祭る神主支配による古伝祭が奉納される。氏子も男児4人が管轄をかかり奉田の面を齋戒した宮司と田楽舞の舞を思われる「節能式」と呼ばれる舞を演ずる。天孫の萬千代峰へ天下られた時に、斎内役を務めた猿田彦由来の舞が演じられる。



主祭神は彦々杵命。例祭日は10月19日。大祭が終わると隣いで地区的人が祭る神主支配による古伝祭が奉納される。氏子も男児4人が管轄をかかり奉田の面を齋戒した宮司と田楽舞の舞を思われる「節能式」と呼ばれる舞を演ずる。天孫の萬千代峰へ天下された時に、斎内役を務めた猿田彦由来の舞が演じられる。

大通寺(本庄地区)

木尊は千手觀音。約1200年前慈覚大師によって創建と伝わるが、くわしい由緒については不明。戦前までは真言宗大覺寺派であったが戦後独立して単立寺院となる。昭和26年に境守寺と合併した。玉理寺(山崎地区)と合併。



「本庄まちあるき」の特徴

本庄というところは鳥取半島の中ほどにあり、松江市の東部に位置している。眼前は広大な中海が広がり、背後には枕木、三坂の山々が連なる。西に萬山の麓があり、海から山へと開ける豊かな自然に恵まれた土地である。しかし、人々が生活している場所は山や小高い丘などに点在しているため地域間の距離が離れている。その上海岸線の集落でも東方の手角地区から西

風景の すばらしさ

枕木山と華厳寺 コース

寺周辺の見所も多いが、なんといってもここからの展望は抜群だ。テレビ塔付近からの眺めもいいが、山頂に



華厳寺全景

ある展望台は最高。中海が東西に広がり、中央に大山を抱く姿はまさに絵に描いたように雄大。このスケールの大きい風景に感嘆の声をあげる人も多い。

本庄小学校では毎年5月に全校で「枕木山遠足」を行い、子どもたちのリーダー育成や長い坂道を歩き石段を登る鍛錬は足腰の訓練に役立っている。同中学校でもマラソン登山とかゴミ拾いとかの行事で枕木山を身近な学習活動に組み入れられている。みなさんも家族全員で「枕木山・華厳寺コース」に挑戦してみては。

枕木山には昔から華厳寺に参拝する人たちを始め、家族連れの登山客や北山縦走のハイカーたちが頂上を目指す。また、毎年5月8日には旧暦の花祭りが行われ、この日を「枕木山祭り」といって近郊近在から大勢の参拝者が詰め掛けている。

枕木山には昔から華厳寺に参拝する人たちを始め、家族連れの登山客や北山縦走のハイカーたちが頂上を目指す。また、毎年5月8日には旧暦の花祭りが行われ、この日を「枕木山祭り」といって近郊近在から大勢の参拝者が詰め掛けている。

身近な「中海」沿岸 コース

環境抜群
海岸道路



中海が一望できる海岸道路

水辺の楽校

海岸道路

中海は本庄にとって、昔からとても身近な存在である。東西に長い海岸線があるので、本庄はどの地域からでも中海がよく見えて親しみが持てる。また、豊富にれる魚介類は人々の食卓を賜ってきた。その中海は、今から40年前(昭和38年)に国家事業として干拓が計画されたが、本庄工区だけはいろいろな事情によって中止(平成12年)となってしまった。そのため中海を縮め切った堤防や海底は工事のため大きく環境を変えてしまったが、海面はどうにか残ることは残った。自然を元の姿に戻すことは大変ではあるが、地域住民などの努力によって水質もだんだんと改善され、魚介類の生息も回復傾向にあるとの声も聞く。

本庄が漁村だったころの船小屋はすっかり姿を消し、海岸線は近代的に整備された。それに変わって本庄小学校の横から新庄地区までの1420mは護岸道路(防災道路)として新しく造られた。その途中、3カ所の船のぼり(港)があり、漁船や遊漁船などの小型船が出入りしている。この1つちょっとの堤防道路を、新しい「本庄のまちあるき」コースとして紹介しよう。護岸道路の一段高い堤防道路には、広いジョギングコースが誕生した。このコースは堤防道路の距離と同じで、朝や夕に健歩づくりに汗を流すジョギングやウォーキングをする人々や、ゆっくり散歩をする姿もたくさん見かけるようになった。また、この堤防周辺は魚釣り場としても知られ、休日などには家族連れをはじめ釣り人たちが訪れる。

本庄小・中学校はいずれも堤防道路の延長線上に建っていて、まさに環境抜群といったところ。校舎東側の中海に面した部分に遊歩道などの施設があり、一帯を「水辺の楽校」と名づけている。裸足で中海に入ると魚介類がいて、それを観察したりして海に親しみが持てるように工夫されている。他地区には見られないユニークなコーナーになっている。また、水のきれいな砂浜では、親子でつくったカヌーを楽しんだり、夕日を背景にした音楽会を開くなどして、本庄の人たちが中海に親しみを持ちながらこの施設を利用している。

アクセスガイド

◆到着地点は本庄公民館◆

◆JR松江駅より10.1km

車で約20分

路線バスで約30分(一畑バス新庄入口バス停下車)

◆米子空港より15.4km

車で約30分

米子空港からJR松江駅までは直行の連絡バスがあります。



編集:本庄地区わがまち自慢発掘プロジェクト実行委員会
発行:松江市本庄公民館

Tel 086-1101 松江市本庄町463-3 TEL (0862) 34-0504

2012年(平成24年)9月20日 発行

◆問い合わせは、本庄公民館まで

地蔵をめぐるコース

<本庄の地蔵伝説>



A編みがさ地蔵(山崎地区)

編みがさ地蔵(山崎地区)

昔、山崎のため池の築造に関わる人々が、湧き水や土石積きの工事に日暮り果て、近くの道を朝一通りに通る者を人柱にしてしまうと相談した。翌朝、通り過ぎようとした編みがさ売りの男を捕まえ、彼を生き埋めにした。工事は無事完成したが、後世の者はその人を憐んでお堂を建て、木彫の地蔵さんを祀ったといふ。



B首なし地蔵(木井地区)

首なし地蔵(木井地区)

昔、九枚川口門という庄屋があつた。凶作の年に役人の墓石を受け、減米を課され、少しそれを咎められ、その場で打ち首になつた。村人はそれを大いに悲しみ、遺骨を見渡せる場所に堂を立て、地蔵菩薩を祀った。後に堂を崩して石の祠としたといふ。



Cぐち聞き地蔵(新庄地区)

ぐち聞き地蔵(新庄地区)

人々のもつ悩みや不安、それからくぐらを聞いて上げようと、幸福寺が境内に平成19年に創った。まだ新しい地蔵だが、手を耳に当て、やさしそうな表情で話を聞く姿に、懐かや地元住民らは親しみを持って手を合わせていて。